

## 兵庫県医師会医療支援チーム（第28陣）「宮城県災害支援現地報告」

洲本市医師会 越久 仁敬

医師、看護師、薬剤師、事務コーディネータがすぐに打ち解けて緊密な信頼関係の下、チームワーク良く支援活動ができたと思います。特記事項を3点報告します。1) 家の片付けで外傷を負うケースが増えています。津波で運ばれたヘドロのために創は汚染されていますので、このようなケースはほぼ全例、破傷風トキソイドの適応になると考えます。石巻日赤では破傷風トキソイドを3800本備蓄していますので、高リスク群に予防投与するのも一法ですが、日赤ではどのように使用するか検討中とのことです。2) 気管支炎様の患者が増加傾向にありますが、いずれも軽症です。感染症ではなく、粉塵や焚火が原因のようですので、マスク着用でかなり予防できると思われます。3) ショートステイベース（SSB）について。入院させるほどではないが、感染症が他の避難者に拡大することを防ぐための隔離施設であり、また、数日間の点滴治療のための施設です。民間病院の一角を間借りして運営されていますが、遠方であるのと検査が何もできないので、医療支援チームから直接依頼するのは現実的でなく、SSB対象患者は日赤にまず紹介受診させた方が良いでしょう。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった兵庫県医師会執行部の先生方、気持ち良く支援活動をさせて下さった支援チームのメンバー、そして何よりも温かく我々を迎え入れて下さった住民の方々に感謝申し上げます。